

成田空港の更なる機能強化等の取組状況

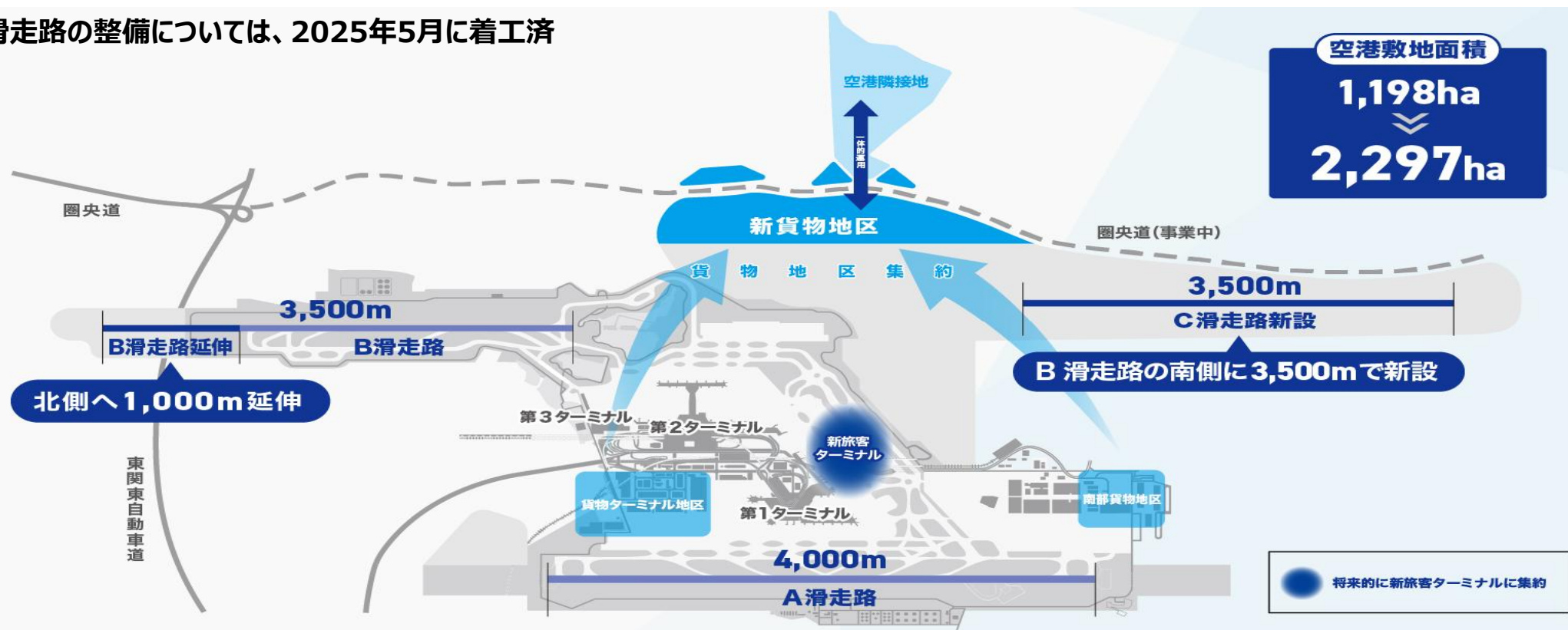
2026年9月30日(水)
成田国際空港株式会社



成田空港の更なる機能強化等の内容

- 成田空港では、**滑走路の延伸・新設**等を内容とする「更なる機能強化」を推進
- また、旅客数・貨物量の増加により課題となる、**旅客取扱施設、貨物取扱施設、鉄道アクセス等**の施設面での機能強化も同時に推進
- 空港敷地面積は、現在の1,198haから**2,297ha**へ**拡大**予定

※滑走路の整備については、2025年5月に着工済



成田空港の更なる機能強化等の効果

- 年間発着容量は、現在の34万回から**50万回**へ増加
- 発着回数50万回達成時には、**雇用創出**のみならず、地元農水産品の輸出拡大や地元企業の成長、観光客の増加、企業進出等、**千葉県経済はもとより、国家経済への波及効果**が期待されている

年間発着枠の増加

34万回 ▶ **50万回**

滑走路の延伸・新設

B 滑走路延伸 **2,500m > 3,500m**
C 滑走路新設 **3,500m**

運用時間延長

2019冬ダイヤから **6時 ~ 24時**
C滑走路供用後 **5時 ~ 24時30分**

発着回数 **50** 万回時に期待される効果

成田空港

	現在	今後
 旅客数	4,000万人	7,500万人
 貨物取扱量	200万トン	300万トン
 空港内従業員	4万人	7万人

期待される効果

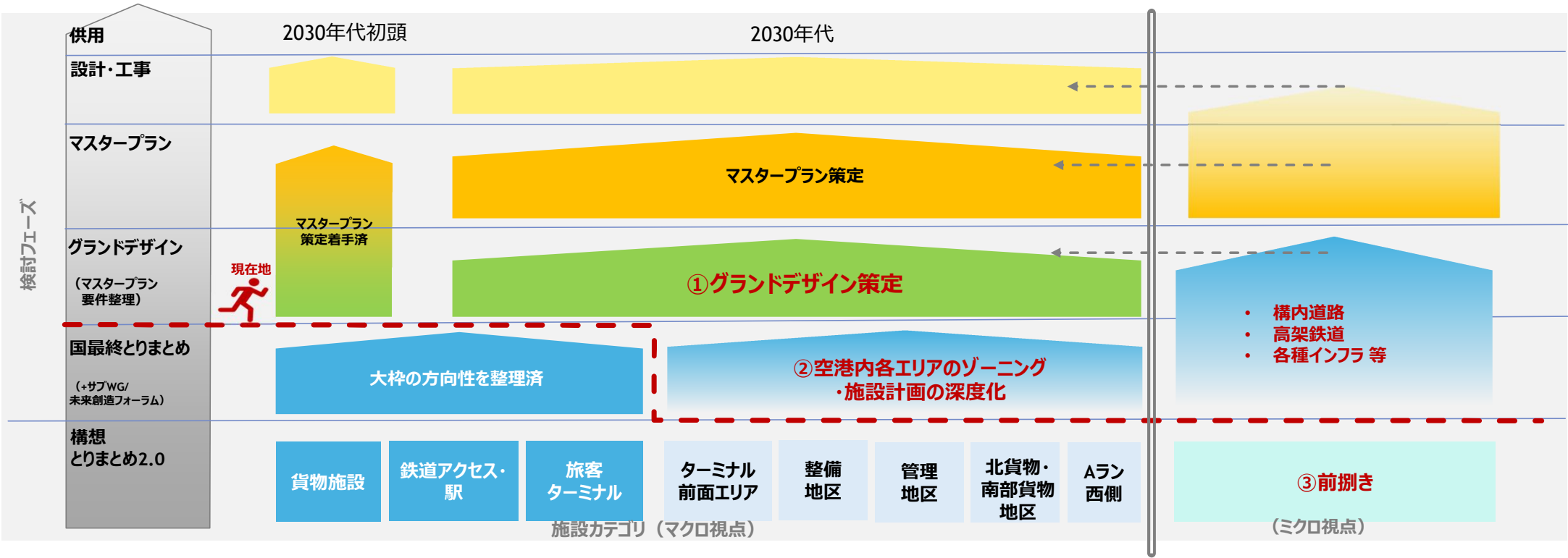
周辺地域



成田空港の更なる機能強化等の取組状況①

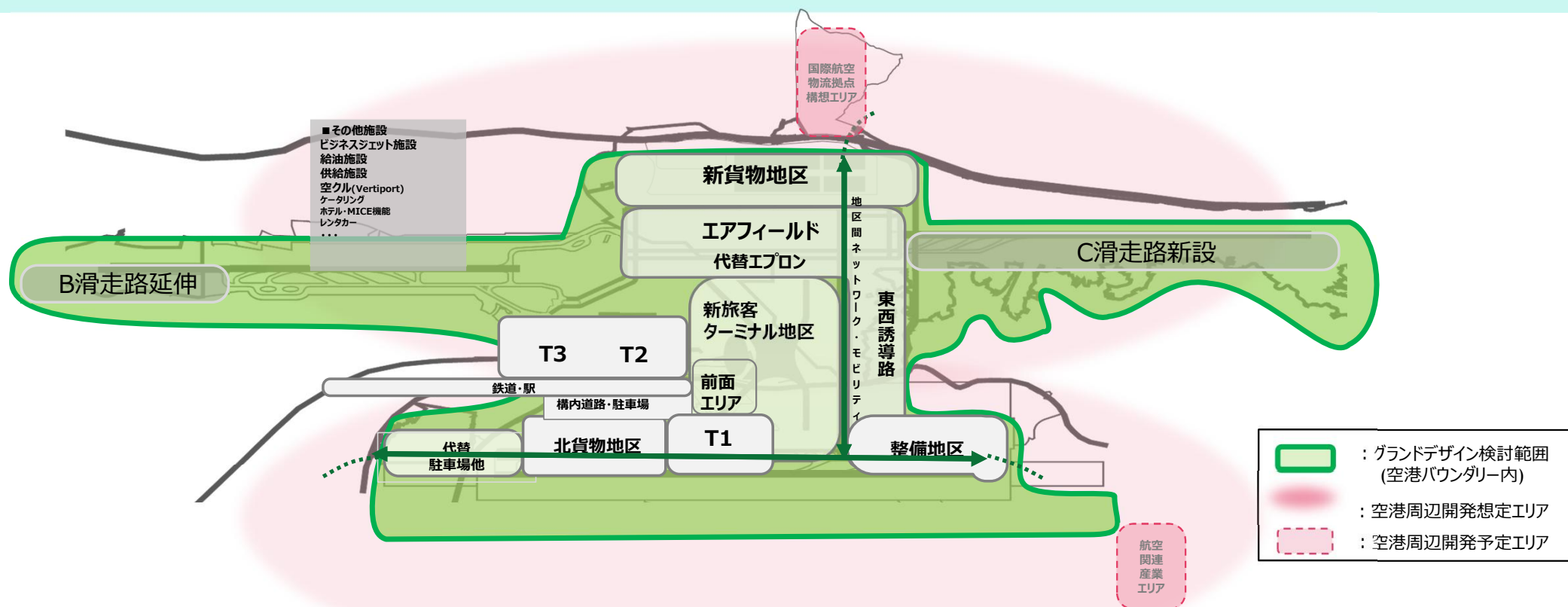


- **空港全体の施設**については、成田空港会社（NAA（グループ全体））で**具体的な計画**を策定
- 国土交通省が設置した「今後の成田空港施設の機能強化に関する検討会」の最終とりまとめの内容や、これまでの検討状況を踏まえ、①空港としてのあるべき姿を描く**グランドデザインの策定**、②空港内各エリアの**ゾーニング・施設計画の深度化**、それらを実現するための③**各種前捌き検討**を同時並行的に行い、マクロ・ミクロ双方の視点から**検討の粒度を深めていく**



成田空港の更なる機能強化等の取組状況②

- 原則として**空港敷地内**を検討対象とする
- 一方で、空港施設の配置や機能を検討する際、**空港アクセス、エアポートシティ、周辺地域のまちづくりや交通基盤整備等との関係を切り離して考えることはできない**ため、**空港外との接続・連携・相乗効果（シナジー）を前提**として検討



成田空港の更なる機能強化等の取組状況③

- NAAでは、社内に「成田国際空港の更なる機能強化推進本部」を設置し、更なる機能強化事業（滑走路延伸・新設）を推進していたが、2026年7月に、国において旅客取扱施設、貨物取扱施設の再編や鉄道アクセスの機能強化等の方向性が示されたことを踏まえ、8月に同本部を「**成田空港第2の開港プロジェクト推進本部**」（本部長：社長）として改組し、これらの取組を一体的に推進することとした

成田空港第2の開港プロジェクト推進本部

【目的】

「更なる機能強化」（B滑走路延伸・C滑走路新設）、旅客取扱施設、貨物取扱施設の再編等からなる「成田空港第2の開港プロジェクト」の推進に全社を挙げて取り組むため

【体制】

本部長：藤井 直樹（代表取締役社長）

副本部長：玉木 康彦（代表取締役副社長）

本部長員：取締役、執行役員

エアポートシティ構想

- 2025年4月に千葉県とNAAが共同で設立した『NRTエリアデザインセンター』において、「SORATO NRT エアポートシティ構想」を“議論の出発点”として策定し、成田空港周辺の地域特性を活かしたゾーニング設定や国際的な産業拠点の形成等を推進
- 具体的には、**物流**や**航空宇宙**といった成田空港の特徴や強みを活かせる産業の集積に取り組んでいる

成田空港「エアポートシティ」構想

ビジョン

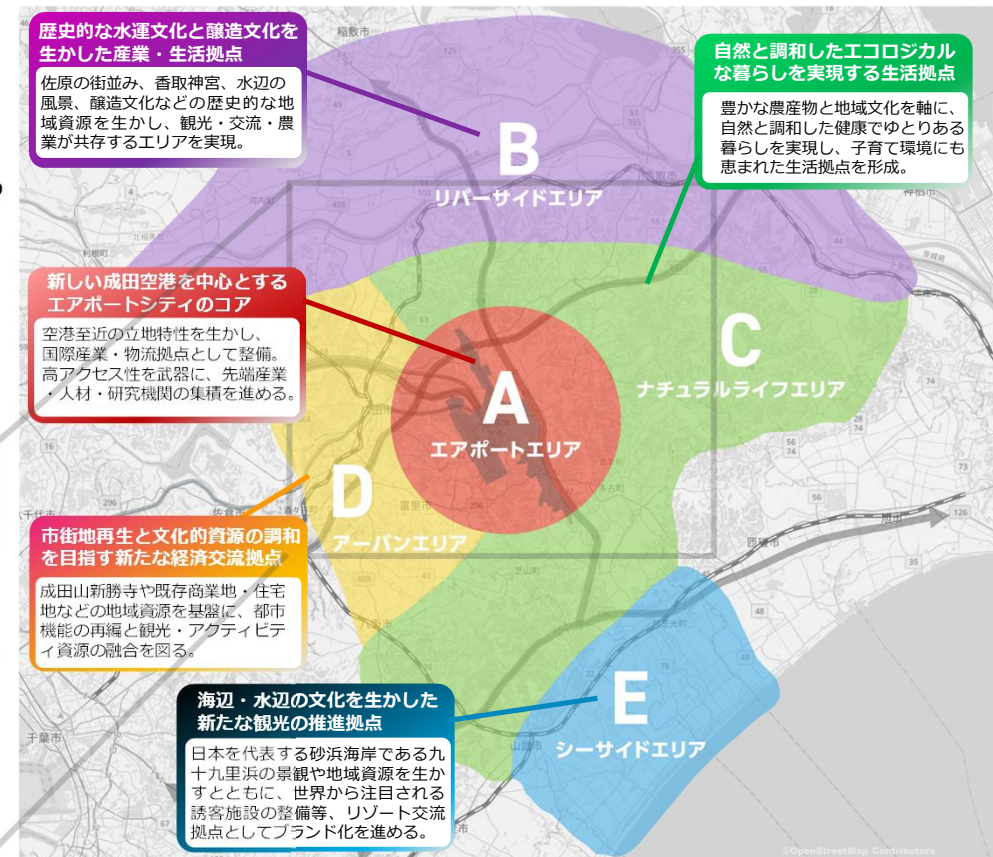
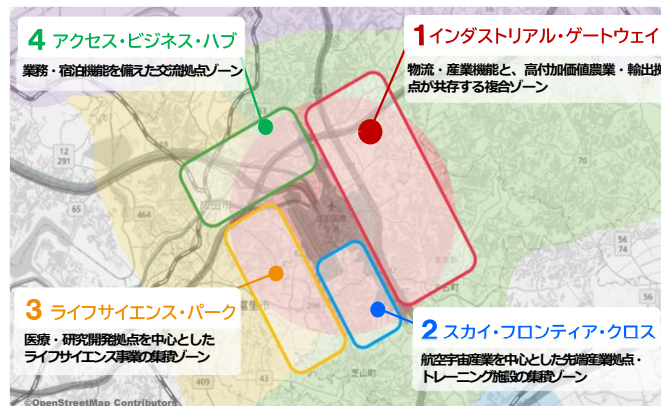
“誰もが輝き、世界と響き合う「フラッグシップ・エアポートシティ」”

<コンセプト>

- ・ 成田空港の国際競争力獲得、日本の成長戦略を牽引する**重要な国家プロジェクト**
- ・ 世界の活力を取り込み、我が国、成田空港、周辺地域が本来有する**ポテンシャルを最大限に発揮**
- ・ **世界をリードするモデル都市圏への変貌**

<目指すべき姿>

- ・ 世界で日本を輝かせ続けるフラッグシップ・エアポートシティへ
- ・ 次世代産業育成・DX活用等による活力創出
- ・ 国際産業拠点形成、日本で最も国際的なまち=**未来志向型エアポートシティ**
- ・ 空港地域固有のアイデンティティ・景観形成



関係府省庁等と連携した取組①（省人化（次世代物流（自動物流道路）））

- 成田空港の「第2の開港」に合わせ、**空港内や隣接する公道、周辺物流地域を結ぶ新たな物流システム**として、**自動物流道路**の構築を目指すため、国土交通省道路局、千葉県とともに、空港及び空港周辺において**実証実験**に取り組んでいる
- 2025年12月、自動運転車両（大成建設・ティアフォー）、トーイングトラクター（ナガセテクノサービス）の実験を実施。2026年1月にはecoroShuttle（ecoro GmbH）、2月にはTOUGH DONKEY（大林組・PLiBOT社）、Cuebusの実験を行い、走行安定性等を検証
- 2026年度も継続して実証実験を実施

2026年1月末：ecoro Shuttle

成田空港内道路



2026年2月：TOUGH DONKEY
（国土交通省道路局実験）

県道成田小見川鹿島港線
天神峰トンネル内



2026年2月：Cuebus
（国土交通省道路局実験）

成田空港内道路



関係府省庁等と連携した取組②（省人化（AI活用（空港運営・保守）））

- 総務省令和7年度（2025年度）補正予算「地域社会DX推進パッケージ事業(先進的通信システム活用タイプ)」の実証事業として、住友商事(株)(※幹事会社)および国内18空港と共に、**AIを活用した空港運営業務・保守点検の高度化に向けた実証実験**へ参画
- 顕在化する空港運営・設備保守の人材不足に対応するため、**複数の空港事業者による共同開発・共同利用を前提としたソリューションを開発し、導入・運用コストの抑制を図る**

場周道路点検AI

期 間：2026年8月21日～2027年3月

場 所：成田空港場周道路(制限区域内)

内 容：自動運転車両に搭載したカメラの映像をAIが解析し、空港内場周道路周辺における侵入者や施設異常、設備の損傷などを検知

効 果：巡視業務の効率化、省人化

撮影 > データ転送 > AI分析 > ダッシュボード表示



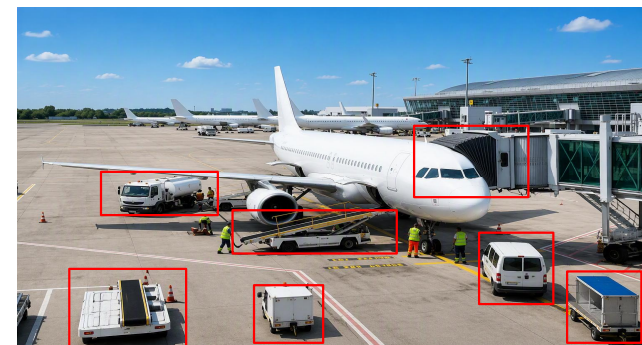
エアサイド業務高度化AI

期 間：2026年8月21日～2027年3月

場 所：成田空港内駐機スポット(制限区域内)

内 容：駐機場エリアの映像をAI解析しターンアラウンド(出発前作業)の進捗を測定する。出発予測時刻の算出や作業状況の可視化が可能

効 果：計画的な出発管理による定時性向上。航空会社やグラウンドハンドリング会社と共有することで作業効率化や安全活動に寄与



関係府省庁等と連携した取組③（脱炭素化）

- 空港内車両の脱炭素化（電動化）を推進するために、制限区域内の空港関連事業者が所有する航空機地上支援機材車両（GSE）が充電可能な**大規模（10ヶ所、70基程度）充電インフラを整備する設計に着手**（急速充電器及び普通充電器を併用し、空港関連事業者が共有で使用できるため、効率的な車両の充電が可能） **※補助金の活用を検討中**
- NAAが率先して電動車両用充電インフラ設備を整備することで、**空港関連事業者の車両電動化の導入を促進し、成田空港での脱炭素推進を加速**



EV ハイリフトローダー



充電器



EV トーイングトラクター



EV リモコン式航空機けん引機



EV ヘルトラダー

写真提供：全日本空輸株式会社、日本航空株式会社

関係府省庁等と連携した取組④（脱炭素化）

- 成田空港において**国内最大規模の次世代型太陽光電池（ペロブスカイト）の整備**を行い、反射光や既存施設の耐荷重を考慮した設置方法、発電量等の課題検証を実施。現行型のシリコン系太陽光パネルも合わせて設置し、同様な設置環境で比較することにより次世代型太陽電池の有効性も検証 **※空港脱炭素化推進事業費補助金を活用して実施**
- 今後、商用化により普及拡大された際には、**これまで導入検討対象外であった施設への導入拡大を図ることで再エネ化率の向上**が可能となり、空港脱炭素化の推進へ大きく寄与



次世代型太陽光電池（ペロブスカイト）



設置状況



(参考) 千葉豪雨（令和8年8月）、台風25号（令和8年9月）への対応等

- 豪雨・台風による都心と成田空港間のアクセス不通に伴い、旅客ターミナル館内での夜間滞留者が発生
- 館内放送等によりお客様に周知のうえ、水、食料（クラッカー）、寝袋を配布
- 駅混雑対応として、各ビル駅長室にリエゾンを派遣するとともに、警備員等による案内誘導を実施

		千葉豪雨(8月)	台風25号(9月)
成田における気象状況	瞬間最大風速	20kt/北	49kt/北
	最大1時間降水量	19.5mm/h	51.5mm/h
	日降水量	45mm	239.5mm
フライトへの影響		欠航:6便、遅延:51便、カーフェー内運航:2便	欠航:253便、遅延:47便、カーフェー内運航:0便
交通アクセスへの影響	JR・京成	運休	運休
	高速道路	東関東自動車道の一部区間で通行止め	東関東自動車道の一部区間で通行止め
	高速バス	運休	運休
館内滞留者数		約7,000人(8/13 午前4時時点)	約4,000人(9/22 午前4時時点)
四街道石油ターミナルの状況		過去の冠水状況を踏まえ、各所対策を実施していたものの各建屋において浸水、設備の水損が発生	
		 パイプライン配管ヤード	 四街道消防、千葉県警による救助対応
			